

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2008年1月20日

## 1. 概要

実践団体名	社会福祉法人岐阜アソシア		
連絡先	058-263-1310		
プランタイトル	防災運動会（一緒にできるよ 楽しもう！助けあおう）		
プランの対象者	障がい者・地域住民・その他どなたでも参加自由	対象とする 災害種別	災害全般

### 【プランの目的・ここがポイント！】

障がい当事者が中心となり地域住民ほか様々な方が一緒になって、災害を想定した競技で楽しみながら防災について学ぶ機会と場所の提供及び、啓発、およびこれに係る関連活動

### 【プランの概要】

防災運動会の付随活動

- ① 防災落語会
- ② まち発見隊の結成
- ③ 普通救命講習Ⅰの開催
- ④ 障がい当事者への防災研修

防災運動会

- ① 広報活動
- ② 競技開発

### 【期待される効果・ここがおすすめ！】

障がい者は全て要援護者であるのか？ そうではなく、できることはたくさんある。しかし、実際に防災活動に参加する障がい当事者は少なく、その機会さえもない状況である。

障がい者がいかに活動したいと望んでいるか、ひとを助ける力を出したいと思っているか、さまざまな「したい」思いを専門分野と連携することによって「できた」に変えることで、今までよりも強い地域力と共生の社会を作り上げることの実践であり、発災前・後の支援の在り方が変わると期待される。

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2008年 4月	落語会開催決定 岐阜盲学校・岐阜県視覚障がい者福祉協会との連携確認	落語家出演依頼 落語会チラシ作製 ボランティア団体機関紙への広報と依頼	
2008年 5月	落語会お題決定 競技種目の選定 自治会の年間行事の把握 消防署との連携確認 スポンサー企業の選定	落語家打ち合わせ 運動会競技・参加賞決定 自治会への計画報告 ボランティア団体機関紙への広報と依頼 スポンサー企業への依頼	24日 バザーにて啓発チラシの配布 26、27日 周辺でのチラシ配布 27日 防災落語会の開催
2008年 6月	自治会への広報スケジュール作成 ひまわり夢企画との連携確認 聴覚障がい者協会との連携確認	後援名義依頼 来賓・審査員参加依頼 応急手当協力事業書申請	1日 ボランティア団体機関紙への広報と依頼 14日 まち発見隊結成 普通救命講習Ⅰ研修開催
2008年 7月	社会福祉協議会との連携確認	車いす借り受け依頼 岐阜県・岐阜市打ち合わせ	1日 ボランティア団体機関紙への広報と依頼 6日 視覚障がい者向け防災研修 23日 応急手当協力事業所登録
2008年 8月	ボランティア・当事者団体との連携確認	競技種目備品準備 バザー等の開催届け提出	
2008年 9月	回覧板チラシ依頼	運動会備品準備 自治会との打ち合わせ 盲学校との打ち合わせ 消防署との打ち合わせ 手話通訳者派遣申請	1日 ボランティア団体機関紙への広報と依頼 5日 岐阜県広報誌での広報 15日 防災まちづくり大賞への応募 15日 岐阜県社会福祉協議会機関紙での広報 16日～ 防災運動会チラシ配布 30日 ボランティア研修会
2008年 10月		岐阜県広報誌での広報 自治会回覧板での広報 当日備品確認 職員合同打ち合わせ レクリエーション保険への加入	1日 ボランティア団体機関紙への広報と依頼 5日 岐阜県広報誌での広報 6日 「セブンデイズ日盲連」取材 12日 防災運動会
2008年 11月	写真の印刷 要援護者関係データ収集	写真展準備 各方面への連絡 法人機関紙での報告 要援護者支援システムの開発	9日 点字フォーラムでの写真展広報
2008年 12月		防災運動会報告書作成	1日～ 防災運動会写真展開催 21日 年忘れ餅つき会での写真展の開催と報告 後援・協賛企業への報告と御礼
2009年 1月		施設内設備の確認 触地図作成	後援・協賛企業への報告と御礼 23日 防災まちづくり大賞での「消防庁長官賞」の受賞決定 30日 消防庁・防災まちづくり選考委員・岐阜県・岐阜市担当者来所
2009年 2月			9日 防災まちづくり大賞表彰式

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑬ 岐阜アソシア

## 3. 実践したプランの内容と成果

### 【実践プログラム①】

タイトル	防災落語会
実施月日（曜日）	5月27日（火）
実施場所	視覚障がい者生活情報センターぎふ 大会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：落語家 氏 名：柳家右太楼・泉水亭錦魚 所属・役職等：日本落語協会
所要時間または「コマ数×単位時間」	13時30分～15時30分
プログラムのカテゴリ、形式	イベント・行事
活動目的	遊び・楽しみながらの防災
達成目標	楽しみながら防災への意識を呼び起こす。障がい者も地域の方々も一緒になって楽しむ。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	落語家二名の地元でのイベント参加日程と合わせその空いた日程に協力を得て開催する。 防災という分野でのお題を選定していただき演じてもらうことの確認。 会場の準備 チラシの作成と配布（センター周辺及びスーパー前での配布）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	寄席の準備（舞台） チラシ作製 チラシ配布
参加人数	58名
経費の総額・内訳概要	落語家交通費等謝礼 6万円 チラシ作製など 1万円
成果と課題	【成果】障がい者と健常者の接点を考えたイベントで、まずは盲学校生徒児童を含め一般の視覚障がい者も地域住民と一緒に落語を楽しめた。 「防災落語会」をきっかけとして防災運動会の予告ができた。 楽しみながら行うことはすべてのきっかけとなった。 【課題】より多くの地域住民の方々への周知
成果物	チラシ

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム②】

タイトル	まち発見隊の結成
実施月日（曜日）	6月14日（土）
実施場所	視覚障がい者生活情報センターぎふ 大会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：職員 氏 名：棚橋公郎 所属・役職等：課長
所要時間または「コマ数×単位時間」	12時～12時30分
プログラムのカテゴリ、形式	その他
活動目的	防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	視覚障がい者と晴眼者が一緒になって、岐阜市内における視覚障がい者用設備や、危険箇所の発見をすることにより、事前に地域情報を把握し、有事の際の資料とする。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	障がい者と健常者が一緒になって町を歩き、特に視覚障がい者用設備の確認と、危険と思われる箇所を地図上に記す。 その後国土地理院の触地図作成システムを利用し、視覚障がい者向けの防災マップを作成する 立体コピーにより完成した、触地図を希望者に配布する。
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	まち発見隊チラシ 調査用地図 立体コピー機 サーモフォーム用紙
参加人数	12名
経費の総額・内訳概要	まち発見隊調査経費 約5万円 触地図作成費 約1万円
成果と課題	【成果】実際に歩くことにより地域を把握できた。 視覚障がい者にとって見えないことを健常者に理解していただいた。 視覚障がい者にどのような情報が必要であるのかが理解できた。 知らなかった「まち」が説明を受けながら歩くことでよくわかった。 【課題】より多くの地域をペアになって歩き、触地図に置き換えるための材料費 用と日程 視覚障がい当事者の居住地域での活動
成果物	視覚障がい者用触地図（継続中）

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 【実践プログラム③】

タイトル	普通救命講習 I
実施月日（曜日）	6月14日
実施場所	視覚障がい者生活情報センターぎふ 大会議室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：岐阜中消防署 氏 名：複数名 所属・役職等：救命係
所要時間または「コマ数×単位時間」	13時から16時
プログラムのカテゴリ、形式	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	障がいを持っていても支援者になれることの実践 今まで参加できなかった講習により救命措置およびAEDの使用法を理解し、今後に役立つ。 応急手当協力事業所の登録
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	岐阜中消防署との打ち合わせ 障がい当事者のために事前に説明内容を言葉で置き換える工夫の依頼 触れることにより理解できることを知ってもらう 音声を録音しその模様を広報誌にて伝える
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	岐阜中消防署救命係への依頼 応急手当協力事業書の申請 録音機材
参加人数	14名
経費の総額・内訳概要	講習実践風景CD作成費
成果と課題	【成果】普通救命講習 I の受講は障がい当事者でも可能であること 自分たちでも支援できるということの自信と、知らなかった救命措置法やAEDの大切さを理解できた。 今後多くの障がい者が受講できる道筋が見えた。 消防署の担当者も障がい者も支援者になれることがわかり、今後の講習の進め方に工夫することを考えていただけた。 【課題】より多くの障がい当事者が救命講習を受講できる機会の創出
成果物	講習会実践風景CD

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

⑬ 岐阜アソシア

## 【実践プログラム④】

タイトル	障がい者向け防災研修
実施月日（曜日）	7月6日
実施場所	関市
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名：棚橋公郎 所属・役職等：防災士
所要時間または「コマ数×単位時間」	10時から15時
プログラムのカテゴリ、形式	講習会・学習会・ワークショップ
活動目的	防災に関する知識を深める
達成目標	障がい当事者に対して災害に対する知識の習得と理解 及び家庭における防災の理解
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	岐阜県に被害を及ぼした、「地震」「水害」「台風」「雪害」「森林火災」「土砂災害」などを紹介 阪神淡路大震災の活動の報告 家庭における災害対策の習得と視覚障がい者として準備できる防災用品の紹介など
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	防災グッズ 阪神淡路大震災の記録写真 岐阜県における災害資料点字版・スライド 岐阜県内の制度の情報取得
参加人数	約50名
経費の総額・内訳概要	災害資料点字版
成果と課題	<p>【成果】岐阜県の災害について知ることができた。 特に突然やってくる地震について当事者の多くが、ほとんど初めての研修で、災害の恐ろしさや事前の準備の大切さを理解された。 災害対策の助成として市町村が行っていることの周知 視覚障がい者として必要な防災グッズの理解</p> <p>【課題】まだまだ地震に対する危機感も薄く、今後さらに深めていく機会の創出と、身近な災害（火事など）の理解 要援護者に対する市町村での取り組みの補完</p>
成果物	岐阜県の災害資料点字版

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 4. 苦勞した点・工夫した点

<b>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</b>	防災運動会に参加していただくための手法 防災活動と運動会という結びの理解 障がい当事者に対する不安の解消 障がい当事者が参加できる競技の選定と進行方法 障がい当事者が要援護者から支援者になりうるのかという意識改革と実践の手法 地域を中心に活動していく意識の高揚手法 住民ばかりでなく企業にも防災についての理解を求めため協賛企業の選出と依頼 県内他、全国の特別支援学校周辺地域に波及していくための手法
<b>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</b>	低予算で楽しく行うための機材・機器収集 開催場所 参加者がどの程度来られるのか、どのようにして来られるのかなど、 スポンサー企業への啓発と協賛の依頼の中で、防災にかかわる企業が地域にどの程度あ るのか、自治会という単位で協力してくれる地域企業の調査と選定 楽しみながら行うことができる競技の開発と進行 一つの活動が多く意識を産み育てていくための関係性 障がい者が必ず「できる」・「できた」という実感を得るための準備
<b>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</b>	障がい当事者および一般参加者の怪我などの点 参加が自由参加であるために人数の設定の点 また地域に存在する様々な方々（高齢者・外国人・障がい者など）に対する競技の種類 と情報提供 消防署などの協力がどの程度期待できるのか、器具等の準備 地域住民の参加する意味の啓発

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	岐阜県立岐阜盲学校 岐阜盲学校同窓会 徳島大学	会場・機材の借受 共催の依頼・記録の依頼 運動会への参加呼び掛け 地域防災研究室への紹介
保護者・ PTAの組織	岐阜盲学校PTA	運動会への参加呼びかけ・寄宿舍への広報
地域組織	京町自治会連合会 明德自治会連合会	運動会への参加呼びかけ 広報活動（チラシ配布・回覧板の活用） 審査員の参加
国・地方公共団体・ 公共施設	岐阜県 岐阜市 岐阜県教育委員会 岐阜県教育委員会特別支援教育課 岐阜中消防署	後援名義 来賓及び審査員の参加 防災まちづくり大賞への推薦 岐阜県地震防災フォーラム in 岐阜市での紹介 後援名義 来賓及び審査員の参加 後援名義 来賓及び審査員の参加 審査員の参加 消防車・地震体験車・煙トンネル体験などの 機材の借受
企業・ 産業関連の組合等	(株)大活字 ホリカフーズ(株) 兼山印刷(株) 河村製紙(株) 岐阜県森林組合連合会 (株)藤田商店  (株)コガネパン セコム(株)岐阜統轄支社 尾西食品(株) オオサキメディカル(株)	防災グッズの展示 協賛：非常食の提供 レスキューフーズの展示 協賛：啓発チラシの印刷 チーム分けシールの提供 協賛：トイレトペーパーの提供 協賛：高賀の森水の提供 協賛：各種防災グッズの提供 記録写真の撮影 協賛：パンの提供 協賛：防災啓発グッズの提供 協賛：アルファ米の提供 協賛：クリーンコットンの提供



# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

	NHK厚生文化事業団中部支局 NHK岐阜支局	後援名義 一日取材
<b>ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等</b>	岐阜県視覚障がい者福祉協会 岐阜はもんの会 岐阜県社会福祉協議会 岐阜市社会福祉協議会 日本防災士会岐阜県支部 NPOひまわり夢企画 NPOレスキューストックヤード	共催と広報 運動会への広報及び協力と参加 広報誌での紹介 車いすの借受 運動会への協力と参加 運動会への協力と参加 運動会への協力と参加
<b>職業、職能団体・ 学術組織、学会等</b>	全国視覚障がい者情報提供施設協会 日本盲人会連合 日本ライトハウス	全国大会での啓発  日盲連アワーでの紹介 機関紙での紹介
<b>その他</b>	センター　メーリングリスト 機関紙	運動会の広報 運動会の広報

## 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

### 6. 成果と課題(実践したプラン全般について)

<p><b>成果として 得たこと</b></p>	<p>防災というジャンルに面白さを取り入れることの必要性を実感。 障がい者(視覚障がい者)が健常者(晴眼者)と一緒に町を歩き、福祉設備だけでなく、発災時に危険と思われる箇所の発見を行うことは、障がいを理解する一歩進んだ防災活動であり、事前にできる事例としての道を作ることができた。 障がいを持っていても、普通救命講習を受けることができたこと、講師の消防署の方々も障がいを持っていても支援者になれることを確認できたことは今後多くの支援者を育成できる道が開かれた。 特別支援学校の児童生徒は、そこに地域があることによりお互いに協力し、助け合わなければいけないことを知っていただくためのきっかけとなった。 障がい当事者が一般の方々と一緒に行くという機会の提供により、お互いが顔をみて行ったことは今までになかった。地域の方々も障がい者だから「助けなければ、できるのかな」という不安が、一緒に行くことによって、障がいを持っていてもできることがあること、私たちが助けてくれることを実感できた。 楽しんで学ぶという基本はすべてのことに共通すると考えられた。 活動そのものが、単に防災の意識向上だけでなく、障がいの理解や接し方、地域のつながりなど多くの学ぶべきことを自然な形で吸収できた。</p>
<p><b>全体の反省・ 感想・課題</b></p>	<p>多くの自治体では要援護者の登録などを行っていても、次にどうすればいいのか？災害が起こる前の様々な活動をどのように進めていけばいいのか、模索している中で一つの事例として、地域と結びつける手法を提供できたことは全国的にも自信を持って紹介できると考えます。 要援護者の中で全体を考えていかなければ、地域は絶対に強くならず、発災時にはまた以前と同様のことが繰り返される。要援護者と言うならば、すべてを守らなければという意識は重要だが、できる方には手伝ってもらおう、助けてもらおうという自発的な意識や活動を進めることで、視覚障がいでも、聴覚障がいでも、必ず支援者になりうると思われる。 特別支援学校での防災訓練と地域の防災訓練をミックスさせることで、経費を低くできるメリットだけでなく、より地域が強くなれることが確信できる。 障がい当事者にできることがあるということを見つけれなかった、できることに対して、それを伸ばす機会を持たなかった等、過去を見つめなおすきっかけとなった。 今後は外国籍の方々や、知的障がいや精神障がいの方々とも一緒に行える機会としていきたい。</p>
<p><b>今後の 継続予定</b></p>	<p>第二回目となった防災運動会は、今後も地域の企業や自治会との連携によって、確実に行っていけるだけの道はできたと考えるが、この活動を他の特別支援学校の地域に発展させていくために、最低限の経費さえあれば実行できることがわかった。 防災運動会に付随した様々なイベントも、地域と共にある施設などであれば必ずできること。多くの企業に協力していただくことにより、防災啓発にもなり、地域力をあげることにもなるので防災の意味を広げ活動に結び付けていきたい。</p>

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 7. 自由記述欄

### 防災落語会

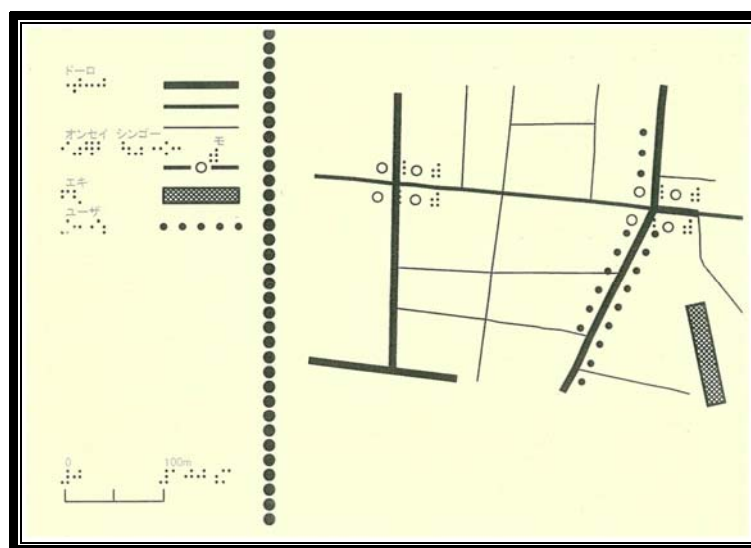
- 泉水亭錦魚・・・「子ほめ」「豆や」
- 柳家右太楼・・・「真田小僧」「二番煎じ」

全てが防災に結びつくのではなく、楽しむことを主眼におき、まくら(前説)の中で「防災」や「災害」に関する話をしてもらい、導入としてはよかった。それを実感したのは、入場者の笑顔でした。



### まち発見隊

- 触地図・・・黒くなっているところが膨らんでいます。視覚障がい者の全盲に近い方々にとって「見る」ハザードマップは意味がありません。触れることでようやくその一部分が理解できるのです。また「点字」を理解している方は全視覚障がい者の1割を超えるに過ぎません。また視覚障がい者はすべて見えないといった、間違った理解を修整する必要があります。



[岐阜駅北の触地図です]

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 普通救命講習 I

- 障がい当事者が学ぶことにより支援者となっていただくことは地域にとっては大変重要です。参加者からは今まで知らなかった心肺蘇生法は難しいけれどやってよかった等の声が多く聞かれました。修了者にはもちろん「普通救命講習修了証」が配布されました。



救命講習会の様子を録音し、希望者に配布、センター広報誌「サウンドパークこころ」に掲載しました。



応急手当事業所に登録しました。

## 障がい者向け防災研修

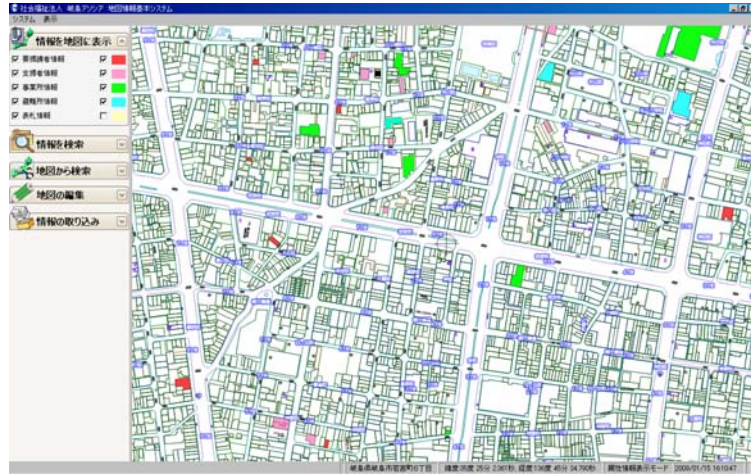
- 岐阜県関市において、障がい当事者に対する防災研修を開催しました。岐阜県の災害について知ることと、今家庭でできることを学びました。(研修会の様子)



# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 要援護者支援システム

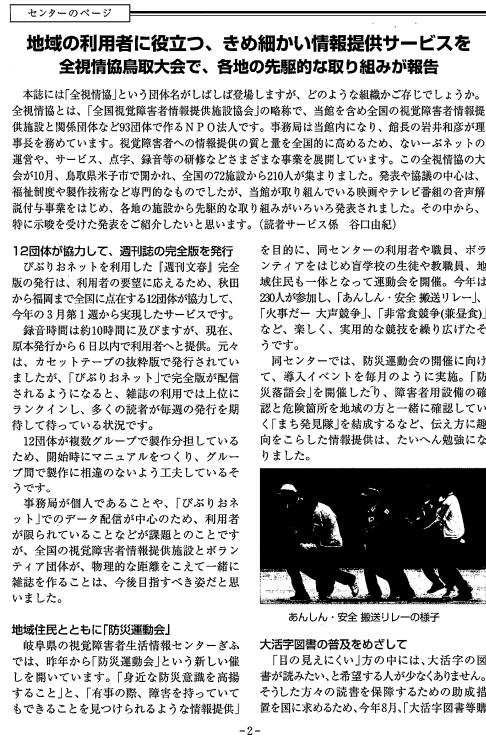
- 要援護者・支援者・事業所・避難所を登録し、事前活動の基礎データとして活用します。



パソコンの画面です。

## 派生した事例

- 岐阜県社会福祉協議会会報 「福祉だより」
- 日本ライトハウス機関紙 「One Book One Life」



2007年度の防災運動会の紹介と2008年の予告をしていただきました。

## 全国視覚障がい者情報提供施設協会全国大会(鳥取)での発表

- 全国には約90館の視覚障がい者情報提供施設(いわゆる点字図書館)があります。この全国大会において、情報提供の在り方として報告させていただきました。平時の情報提供だけでなく、災害の時こそ必要な情報発信を行っていくべきではないかと投げかけました。

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## チラシ配布

- 開催場所周辺自治会に個別にチラシを配布、回覧板での告知を行いました。



この活動は足で稼ぐことも大変重要です。熱い中多くのボランティアの方、職員でも配布しました。

## 防災運動会

- 10月12日に開催した模様です。印象的なのは参加者が笑顔です。多くの実践の中で楽しく学べる機会が必要と感じました。

### 搬送リレー



6名のうち4名が視覚障がい者です。

### 水パック消火競走



投げることの難しさも知りました。

### 非常食準備競争



一緒に用意して食べる準備をします。

### 車いすで避難競争



想定で怪我人を障がい者の方が車いすを押しています。

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 応援合戦



運動会らしく応援合戦は盲学校の応援団長

## バケツリレー



バケツも同じように手渡すことができました。

## 非常食



発災時には備蓄してある非常食を食べることになります。支援が来ると思われる、1、2日を過ごすために様々な非常食があります。必要な備蓄は何かを知っていただけました。

## 体験コーナー

- 多くの体験は実際に何度も行うことによって、発災時にはあわてずに行動できると考えます。継続して体験する大切さを実感しました。

### 煙トンネル



苦しさと見えにくさが不安をあおります。

### 防災楽習迷路



障がい者にも災害は訪れます。その時のために。

防災教育チャレンジプランでの様々な活動をミックスすることが今後の防災教育に役に立つ実践です。

# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 岐阜県唯一の 50m はしご車



実際に 50 メートル近くまで上昇しました。肌を感じる風の強さや、揺れるはしご、さらには障がい者故の感じ方を参加者も、消防署員も感じる事ができた、貴重な体験です。

## 地震体験車



今年導入された最新式の地震体験車です。車いすのままでも体験ができました。震度が上がっていくにつれてどんどん身動きが取れなくなる恐怖を感じ、その時に、その後はどうするかを学びました。

## 防災運動会の成果

- マスコミによる取材を受けました。



中日新聞記事

岐阜新聞記事



岐阜県地震防災フォーラム in 岐阜市



# 2008年度防災教育チャレンジプラン 最終報告書

## 防災運動会記念写真展

国務大臣 野田聖子氏



センター1階廊下壁に記録写真の一部を閲覧できるようにし、希望者には無料で配布いたしました。野田大臣もいろいろ体験していただきました。

## まとめ

今回二回目の防災運動会には障がい当事者の方々から多くの期待を寄せていただきました。

できることがある？ できることを見つけたい！ 目は不自由でも手足は動きます！ 聞こえなくても… 多くの障がい当事者はそれぞれ同じ思いでこのときを待っていたのだと思います。助けてもらっていることを知っているからこそ、自分ができることをしたい！この思いを伝えたい！今まで見過ごしていた貴重な力を私たちは活かす必要があります。

多くの被災者が予測される「災害」に対して、事前にできることを今、すべきと考えています。

子どもたちや高齢者も外国籍の方もみんながそう思っています。発災時に見えてくる準備も必要ですが、今こうした方々を結びつける活動が大切と考えております。

また被災した方々の癒しとしても、例えば視覚障がい者の多くは鍼灸マッサージ業を営んでいる方が、避難所で被災者に対するマッサージ、聴覚障がい者は理容業を営んでいる方もありますので、髪の手入れなど、できることに目を向けていただくことで要援護者はすべて助けなければ！という意識から、重要な支援者だ！ に変わっていくのだと考えます。